

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも 百姓宣言

「当たり前前にもやるべきことを誠実に」

【熊本地震から二度目の春】

今年も4月14日を地元で迎えました。熊本地震から2年が経過しました。熊本県庁、そして震源地である益城町で行われた犠牲者追悼式に出席しました。犠牲になった方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

会場に向かう道中では、「ここには家があった」、「あの場所に集積された震災瓦礫が撤去された」と考えては、震災当時を思い出して、その爪痕を感じました。

一方で、「あそこにはやっと新しい家ができた」、「あそこは農業ハウスが建った」などという新たな息吹も感じることができました。

自民党では、熊本地震を教訓に、広域的な災害発生時に、被災者に対して迅速かつ適切な対応を行うことを目的に「災害救助法」の改正について議論が始まりました。

阪神淡路大震災、東日本大震災などこれまでの災害復旧対応において、都道府県を越えて自治体職員の相互支援が行われ、経験やノウハウが蓄積されてきています。JA間でも同様の取り組みがあることを承知しています。

あらゆる災害に迅速な対応が進みつ

つありますが、被災者の立場に寄り添うと「もっと早く来てくれたら」という声は必ず聞きます。こうした声を一つでも少なくすることができるようより良い法案にまとめていけたらと考えています。

【ボトムアップの政治を行う】

森友や加計学園の問題で、政治や行政への不信感や不満の声が各地で表面化しています。私も国政の当事者の一人として憤りを感じています。信頼回復が急務でありませんが、事態収束の見通しが立っていません。先日、岸田政調会長が率いる政策集団「宏池会」のパーティを開催し、3千人を超える多くの方に会場いただきました。全国各地の農業関係者の姿もありました。「国民の多様な声、異なる意見にも耳を傾け、ボトムアップの政治を行う」というのが私たちのスタンスです。当たり前の事を誠実にこなしていくことが大事だと思います。

私は、食料自給率の実現目標に向けて、どのように考え方を政策に反映していくか。食料安全保障と合わせて我が国の持続可能な農業をどう実現していくかをしっかりと政策に求めていきたいと思っています。



▲農林水産関係の議員連盟に出席

全国・県農政連推薦

参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

「措置要求決議で、副総理から、前向き回答」

【決算委員会の冒頭で規制改革推進会議の運営について質疑】

1年前の6月に、決算委員会での私の最大の政治課題である農業・農協政策について、「批判や攻撃を繰り返している規制改革推進会議は許せない」との思いで、参議院の決算委員会だけが持っている措置要求決議を行ったことは、私の一つの政治活動の誇りでもありました。各党もすべて私の提案に賛成してくれていました。

相当に準備して決意をもって臨みましたが、残念ながら政府の公式の答えは、「規制改革推進会議と連携をとっている」というものでしかない。もっと突っ込んだ形で、農林水産省の食料・農業・農村政策審議会の開催状況や、5年前に産業界競争力会議の農業分科会の新浪座長が取りまとめた「コメの生産調整の目標配分は、国としては行わない」とする提案が、1カ月足らずの間で決定されたことの問題などを質疑した。

【麻生副総理は、「現場の意見が大事」
「山田氏と同じ意見だ」と答弁】

私は、麻生副総理に、規制改革推進会議等の仕事の進め方は間違っていること、これでは日本を壊すものでもあること、副総理として、大局的な見地でリーダーシップをとってほしいと質した。麻生副総理からは、「一部の人たちだけで考えた話ではとても物は動かないのであって、現場におられる方々の話を聞かぬとどうにもなりませんから、改革をしっかりと進めるに当たりましては、そういった実務というか実態というものをきちんと見ておかねばならぬということにしましては全く同じ意見であります」との率直な答弁をいただきました。

このことは、必ず、今後の規制改革推進会議の運営に影響を与え、そうでなければならぬとますます確信を深めたやり取りだった。



▲決算委員会にて質疑